

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791300155		
法人名	株式会社 コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホームももの里		
所在地	福島県伊達市沓形18番地2		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和5年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過の中、外出が中々出来ないため施設で出来るレクリエーションを多く行い、食事を楽しく食べて頂くため、季節や行事にあった食事提供、テイクアウトを行っています。入浴時はリラックスして頂くために季節に応じ、菖蒲、ゆず香りのよいものや入浴剤を入れるなどして少しでも楽しんでいただけるよう工夫しております。

運営推進会議で提案された、利用者の将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、利用者を主体に、家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、利用者の意思決定を支援するプロセスを実践するなど、利用者・家族のこれからについて取り組んでいる。
地域密着型サービスの役割を理解し、認知症カフェや地域の行事に参加し、事業所の役割を地域の方に伝え、地域の方の相談に応えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域ででの生活が支援できるように理念を作成、念頭におき常務に取り組んでいる	地域の方々、家族、利用者に接した時に笑顔が見られると自分も笑顔になり、自らも笑顔で接することにより他の方にも笑顔で過ごして貰えるようよう理念を活かしていきたいと考えている。理念を目の届く所に掲示し、いつでも確認しながら業務を行えるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のかかりつけ医との繋がりが継続できるように支援している。町内会に加入しており、地域の清掃作業に参加し、地域の方や回覧板で地域の情報を得ている。	中学生の体験学習を受入れ、月に一度、地域包括支援センター中心で、認知症カフェを開催参加し、レクリエーション活動、相談等を行い、交流を図っている。隣接する小規模多機能と合同でももの里まつりを開催、地域の方と利用者が楽しく過ごして貰う機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や申し込みに来所された方に対し、お話しをお聞きし認知症の方への対応方法や介護方法等についてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルス感染予防のため運営推進委員会議は書面で開催している。事業所の現況や行事・事故報告・防火対策・利用者様の状況について等報告している。	協力医から入居者の将来の変化に備え、将来の医療やケアについて、利用者を主体に、家族や近しい人、医療・ケアチームが話し合いを行い、利用者の意思決定を支援するプロセス打診があり、取り組んでいる。その結果、本人や家族の安心感が増したように感じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、書類提出や介護保険事務手続きや相談、アドバイスをいただき日ごろから協力関係の構築に努めている。コロナワクチン接種時の事務手続きの際には、市の担当者の方に来所いただき連携を図りながらスムーズな運営ができるよう努めている。	市からは、介護保険制度の事柄しか受け取ってはいない。市には市で実施している、介護保険以外の対象者向けのオムツ券、タクシー券等の申請方法などの助言が欲しいと感じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関職員会議などで身体拘束しないケアについて学び確認しながらサービスに努めている。オートロックは安全対策と身体拘束の両面において思案している。午後から夕方までの時間帯においては、ロックを解除している。	身体拘束排除宣言を掲げている。身体拘束ゼロを目指し、実例などを挙げ話し合っている。外部研修会に参加し参加した職員から職員への研修時の内容報告、伝達を行っている。内部研修については、毎月のモニタリング毎に身体拘束についてケアの確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の身体面、精神面の状態の観察を行い、早期発見に努めている。不適切な介護になっていないか会議などで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	状況判断が難しくなってきた利用者や、家族関係に不安のある利用者様、家族様には成年後見制度の話をしたり、活用に向けてのアドバイス等を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者様、家族様に十分に契約書、重要事項説明書についての説明を行い、不安や疑問点を伺い納得頂いた上署名、捺印を頂いている。説明の中解約時の説明も行っており理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ過の為、家族報告会は、行われていなかったが、書面にて報告を行う。また、いつでも来所時には気軽に管理者や職員と意見、要望が言えるような関係作りに努めている。出され意見等は職員会議で検討し、運営に反映されるように努力している。	かかりつけ医の受信について意見があり、遠方にて対応が困難であったり、緊急時には、職員で対応している旨を伝えている。利用者・家族からの意見や要望が、事業所のケアサービスの質の向上に役立つものと理解している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場では、運営に関する意見や提案を発現する機会を設けている。また、必要に応じて個人面談を行っている	修繕箇所が多く、エアコンや洗面台の交換替え等提案あり、修理点検、新しく購入し使い勝手がよくなっている。職員の向上心を高めるために、資格支援制度があり、研修費用の補助がある。外部の研修会への要望は、資料や申請書を提出、検討、参加してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表にて自己採点をし、第1次 第2次考課を行い、給与や賞与に繋げ向上心を持って働けるような環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染症拡大防止図りながら、個々の力量や適性を考慮し、リモート研修などを取り入れ、全職員が研修に参加しレベルアップを図っている。それを職員会議時にフィードバックし、働きながらトレーニングしている。他に会社独自に本社主催の研修会を随時会社全体の底上げも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加や、認知症カフェ等で同業者との情報交流をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス計画書をよく理解して利用者様の声掛けを行い傾聴しながら行動をよく観察して不安なことや要望を聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居室担当がご家族様に連絡を取り関係作りに努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性を確認し情報を共有しながら見極められる様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来ることを探して一緒に茶碗拭きや洗濯物たたみなどを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医への通院時には、ご家族様に通院時の付き添いを頂いたり協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は面会も見られたが現在は制限されている。郵便物や電話連絡にはコロナ前と変わらず対応している。散歩や買い物に出かけた際、地域のなじみの方との関係性が築けている。	利用者との外出、買い物は職員が対応し、馴染みの近所のスーパーに出かけている。コロナ過の様子を見ながら玄関先の換気の届く場所で短時間での面会を行っている。理美容などはコロナ禍の今、訪問業者を利用してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、状況を把握し席替えを行ったりレクリエーションを行い関わりをつくり努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了していても相談いただけるようはなしをし、入所施設の相談情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人様の思いや暮らし方の希望を聞き取り努めている。	入浴介助時や居室で対一になった時になどに思いを聞くことが多く、家に帰りたい・外に出かけたい・買い物に行きたいなど、その方、それぞれの生活歴、入居歴など考慮し対応している。把握した思いや意向は、職員間で共有し、介護計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	かいわのなかでどのような生活をされていたのか確認し、生活暮らしの環境に把握しながら努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の行動、体調、言語、表現を観察し、職員間で共有し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い職員の意見～現状に応じた介護計画を作成している。	その人の持っている残存機能を生かせるように計画している。本人ができる部分は任せたり、見守りしながら、本人出来ない部分は必要な介助ができるよう計画している。現場で柔軟な対応ができるよう、実践に問題があった際や利用者の状態に変更があった際には、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状況や状態を細やかに介護記録に残し、職員全員が確認情報を共有出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の希望に応じて訪問診療、訪問理美容、訪問マッサージ等を活用し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため現在は外出することが難しいためテイクアウトを実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の希望により個々に対応している。往診の際には利用者様の状況報告、キビタンネットにて行っている受診の際には状況報告を作成より細かな医療的ケアが行える様支援している。	歯科や耳鼻科など、主治医に相談し家族に連絡、できるだけ家族対応としている。受診後家族より説明して貰い、不明な点があれば直接病院等に連絡して確認している。受診時は、事業所での様子を記入し持参して貰い、受診が円滑に行われるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の訪問と、隣接する施設の看護師連携を図り、必要時は看護職からの指示を仰ぎながら、利用者への適切な受診、介護を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院に対し確実な情報を提供し、安心して治療が受けられるよう支援している。入院中は随時電話にて状況を伺い、ソーシャルワーカーと連携しながら、退院後スムーズに今までの生活に戻れるよう支援している。また必要に応じて主治医とも気軽に相談できる関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や家族報告会等に於いて重度化した場合や、終末期のあり方等の説明をし家族の意向を確認している。そしてグループホームでの医療との関わりと、出来る事、出来ない事も説明し理解を頂いている。看取り時には病院との連携も図りながら日々チームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に看取りに関する指針を基に、介護についての対応や医師からの説明を受け、利用者・家族の意向に沿った支援をするようにしている。職員には、重度化や終末期に対応するため、必要に応じて、研修や説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、マニュアルに添った対応ができるよう職員に周知。訓練時にシミュレーションしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同の避難訓練や通報訓練を実施している。連携が図れるよう、日頃から職員間の交流している。また、運営推進委員の方にもお願いし、緊急時には地域の皆さんの協力を頂けるようにしている。	年に2回、消防署の立合いで、訓練を行っている。コロナ前は、地域の方にも参加して貰っている。有事の際の協力体制や連絡網の整備も併せて行っている。訓練後、消防署から日ごろの訓練と初期動作の大切さと日ごろから避難経路の確保をと助言を貰っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	オンラインでの接遇に関する研修を全職員が受講している。職員は利用者様の人格を傷つけないよう、丁寧な話し方や対応を心がけている。	利用者は人生の先輩である事を意識し尊重し、特に言葉使いなどに気をつけてるように心がけている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、個別に話を聞き、利用者の間に職員が入って対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一対一での会話から本人の思いや希望を聞き出せるように対応し自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の個性を大切にし穏やかに本人様のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用している。髪型も本人の希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせての食事提供楽しみを持って頂ける様支援している。また、食器ふきなどの片付けを行っていただいている。。	昼食はカロリー栄養バランスを考え、朝食、夕食は、夜勤の職員がメニューを選択し提供している。主に肉類、魚類等や色取りなど目でも楽しんで貰えるようにしている。一人ひとり、自分のペースで食べられるようにしている。職員も利用者と同じものを一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録から一人一人の水分摂取量を確認している利用者様の体調に合わせて食事形態を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケア声掛けを行い、対応しているが介助が必要な方は口腔スポンジ、口腔ウェットなどで一人ひとりの口腔状態に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から排泄パターンの習慣を読み取りその都度声掛け誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。自尊心に配慮し、さりげないトイレ誘導を行ったり、自立に向けた支援に取り組んでいる。	事業所としては、本人の意向に基づいて行うようにしている。定期的な排泄の誘導、パット交換等を行い、衛生面にはいりよし、快適に過ごしてもらうように努めている。失敗しても、失望感を与えないよう片付けや交換などの対応をするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、朝食時にヨーグルト提供、水分補給時はオリゴ糖使用し、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節湯や入浴剤を使用したり、入浴時には職員が1対1で見守り、必要な介助を行い、ゆっくり会話しながら、リラックスしながら入浴できるよう支援している。	一人ひとり、のんびりと入って貰えるよう心掛けています。入浴を嫌がる人には、嫌になっている原因を見つけ入浴できるようにしている。気分転換に入浴剤を使用したり、乾燥肌の人には保湿入浴剤を使用している。入浴ができなかった方には、了承を得て居室で清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせてフロアで談話や好きなテレビを観たりと朝食後、または昼食後ゆっくり休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	教室担当者が服薬管理を行っている。処方箋は個々のファイルと施設用ファイルで管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でレクリエーションの提供食器ふき、洗濯物たたみ等、役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会は少ないが近所等の散歩などを行っている。	外の空気や光を浴びることの意味や役割を考慮し、日が差すときにはカーテンを開け日を入れ換気をしたりベランダで外の空気を感じてもらっている。季節を楽しむ事のできる花見や紅葉狩りにコロナ禍前は出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご家族様から預かり事務所で管理している。買い物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられるご利用者様もあり、手紙ハガキなどの希望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ壁画を作成したり、飾りつけを行っている。テラスにはプランターなどで花を楽しんでもらっている。	利用者は、自分のペースで居室や共有空間でも自席があり、自由に過ごしている。歩行や移動のため、手すりや案内板をつけ、目標までの移動に役立つようにしている。感染症対策で手洗い、うがい、マスク、消毒や時期前に予防注射の接種を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスやソファを置いて居場所づくりを行い、席替えをし、気の合ったご利用者様と楽しく過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	馴染みの物大切にしている物等を持ってきてもらい安心して過ごしていただけるよう配置の工夫をしている。	身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をその人に合わせている。入居時、家族の立合いのもと、自分の過ごしやすいように配置を考えてもらっている。清掃は、主に職員、細かい部分は各居室担当が行い、衣替えも居室担当が中心となり、利用者と話しながら整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの入り口には目印をつけてわかりやすくしている。テーブルの上に名前を貼り、好みの座布団を引いて個性をでしている。		